

<令和5年度審議テーマの方向性>に関して

児美川 孝一郎
(法政大学)

1. 注目したい状況

◎不登校 24 万人 (2021 年度)

→コロナ過だけの一過性のことではない

◎通信制高校 生徒数 21 万人 (2021 年度)

→高校中退後ではなく、中学校からのストレート進学も

★これまでの学校、これまでの教育のあり方が根本的に問われている

2. どんな対応が登場してきたか

◎GIGA スクール, ICT 活用を契機に, もっと原理的には「個別最適」な支援・対応

→教科学習の進め方から, 多様な子どもへの対応へ

★では, 学校の存在意義はどこにあるのか?

「個別最適な学び」と「協働的な学び」

3. 教育の担い手をどう支えるか

◎相変わらずの教員の多忙化

→新教育課程, コロナ過, GIGA スクール, ICT 活用, 電子教科書, 新テスト・・・

◎教員志望者の激減

★教育条件の整備を。働きやすく, 働きがいのある職場づくり

★地域はどう支えられるか

コミュニティ・スクール, 地域学校協働活動

4. 地域総がかりで子ども・若者の社会的自立支援を

◎学校と比べれば, 地域における支援は柔軟に行われてきたとはいえ・・・

★「個別最適」と「協働」

★居場所的な「受容」と発達支援的な「かかわり」

★対面とバーチャル

★子どもデータベース

★アウトリーチ